

## 職業実践専門課程の基本情報について

学校名	設置認可年月日	校長名	所在地															
熊本工業専門学校	昭和58年2月24日	江藤 正行	〒861-8038 熊本市東区長嶺東5丁目1番1号 (電話) 096-380-8645															
設置者名	設立認可年月日	代表者名	所在地															
学校法人 開新学園	明治37年6月1日	江藤 正行	〒862-8677 熊本市中央区大江6丁目1番33号 (電話) 096-366-1201															
目的	自動車技術の高度化が進む中、常に新しい情報を取り入れ、認証工場の整備主任者としての責務を果たせることを目的とし、国家二級ガソリン自動車整備士、国家二級ジーゼル自動車整備士を養成する。																	
分野	課程名	学科名	専門士	高度専門士														
工業	工業専門課程	自動車整備工学科	平成6年文部科学省告示第84号	0														
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	講義	演習	実習	実験	実技											
2年	昼間	1800	900	0	1440	0	0											
生徒総定員	生徒実員	専任教員数	兼任教員数	総教員数														
160人	81人	7人	2人	9人														
学期制度	■前期:4月1日～10月3日 ■後期:10月7日～3月31日		成績評価	■成績表: 有 ■成績評価の基準・方法 試験、実習の成果、履修状況等を総合的に勘案して行う														
長期休み	■学年始:4月11日 ■夏季:7月20日～9月1日 ■冬季:12月14日～1月6日 ■学年末:3月13日		卒業・進級条件	履修すべき全授業科目を合格していること。提出物(レポート、課題)を全て提出していること。国土交通省の規定時間を満たしていること。														
生徒指導	■クラス担任制: 有 ■長期欠席者への指導等の対応 補講の実施、休学		課外活動	■課外活動の種類 学外周辺地域清掃活動 ■サークル活動: 無														
就職等の状況	■主な就職先、業界等 自動車ディーラー、自動車整備業界 ■就職率 <sup>※1</sup> : 100 % ■卒業者に占める就職者の割合 <sup>※2</sup> : 100 % ■その他 進学者 0人 (平成30年度卒業者に関する令和1年5月1日時点の情報)		主な資格・検定等	■国家資格・検定/その他・民間検定等 (平成30年度卒業者に関する令和元年5月1日時点の情報) <table border="1"> <thead> <tr> <th>資格・検定名</th> <th>種</th> <th>受験者数</th> <th>合格者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>2級ガソリン</td> <td>②</td> <td>31名</td> <td>26名</td> </tr> <tr> <td>2級ジーゼル</td> <td>②</td> <td>31名</td> <td>22名</td> </tr> </tbody> </table> 種別 ①国家資格・検定のうち、卒業と同時に取得加納なもの ②国家資格・検定のうち、卒業と同時に受験資格を取得するもの ③その他(民間検定等)			資格・検定名	種	受験者数	合格者数	2級ガソリン	②	31名	26名	2級ジーゼル	②	31名	22名
資格・検定名	種	受験者数	合格者数															
2級ガソリン	②	31名	26名															
2級ジーゼル	②	31名	22名															
中途退学の現状	■中途退学者 8名 平成30年4月1日時点において 在学者 69名 平成31年3月31日時点において 在学者 61名 ■中途退学の主な理由 学習意欲喪失、単位未修得、出席不良 ■中退防止のための取組 個人面談、保護者会の実施		中退率	11.5 % (平成30年4月1日入学者を含む) (平成31年3月31日卒業者を含む)														
ホームページ	URL: <a href="http://www.kumakosen.jp">http://www.kumakosen.jp</a>																	

1.「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

電子装置の採用等、自動車の新技術の普及と将来的には、低公害車の普及による更なる高度整備技術力が必要になっている状況のなか、認証工場の整備主任者としての責務を果たすことを目的とし、企業の技術担当者による特別講義や企業実習(インターンシップ)等を行う中で、新しい電子制御機構や現在の整備作業の傾向を的確に把握・分析し、基礎実習はもとより、正しい診断技術をも含めた整備及び検査ができる力をつける。また、国土交通省の指針に合わせた二級自動車整備士の内容にあわせ、整備業界で即戦力として活躍できる整備士としての基礎をしっかりと学び、二年間で二級自動車整備士取得(ガソリン・ジーゼル)を目指していく。教育課程編成委員会を適宜開催し授業内容について確認を行うとともに、企業より企業実習や特別講義及び教員に対し専攻分野における実務に関する研修を組織的に行う。また、企業実習時等に企業訪問を行い、企業からの要望を伺い教育に生かしていく。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

専門性に関する動向や地域産業振興の方向性について意見交換等を通じて、より実践的な職業教育の質を確保することを目的とする。

委員会は次の各号に掲げる事項を審議し、会議の結果をカリキュラム会議に報告するものとする。

- ① カリキュラムの企画・運営・評価に関する事項
- ② 各授業科目の内容・方法の充実及び改善に関する事項
- ③ 教科書・教材の選定に関する事項
- ④ その他、教員としての資質能力の育成に必要な研修に関する事項

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

平成31年4月1日現在

名前	所属	任期	種別
竹原 崇	一般社団法人 熊本県自動車整備振興会 業務部 業務課長	平成30年4月1日～ 令和 2年3月31日	①
西山 殊利	日産プリンス熊本販売株式会社 サービス部 課長	平成30年4月1日～ 令和 2年3月31日	③

※委員の種別の欄には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

- ① 業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ② 学会や学術機関等の有識者
- ③ 実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

年2回を原則として開催

- 4月～9月に1回、前年度カリキュラムの課題について
- 10月～3月に1回、次年度カリキュラムの説明

(開催日時)

第1回 平成30年10月3日 11:00～13:00

第2回 平成31年2月15日 11:00～13:00

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

・実習教材、実習車両について

国土交通省の規定の教材、車両数は満たしているが、「古く老朽化した教材が観られる。就職先のニーズに応じて順次入替が必要」との指摘があり、現在新規教材入れ替えの検討をしているが、今後も企業様からの協力も仰ぎながら順次入れ替えていくこととした。

・授業科目の自動車実習「エンジン・シャシ・電装」、「自動車検査作業」について「構造・整備の基本について重点を置かれているカリキュラム内容の様ですが、就職先のニーズに応じて現在の新 機構に関する授業に比重を置いていく方が望ましい」、「定期点検整備の点検箇所や作業手順はよく訓練されているようだが、点検目的や注意 事項を十分理解させておくことも必要で、車両1台当たり点検作業班編成も現在より少人数化が望ましい」との助言があり、次年度のカリキュラムに含める検討をしていくこととした。また、企業より講師を招き実施する特別講義の内容には最新機構について実施 予定としている。

・年間計画時間、カリキュラム全般について

「年間のカリキュラムが多すぎるのではないか」、「校内整備技能競技大会は、目的や内容等は十分評価できるが、大会に向けての訓練内容や時間を多く計画した方が、より職業実践に繋がるのでは」、「陸運支局の検査ライン、軽自動車検査ライン等の視察は是非実施してほしい」との要望があり、次年度のカリキュラム検討の際に、国道交通省の認定要件を考慮したうえで、可能かどうか 検討することとした。

2. 「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係

(1)実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

企業は学生に対し、現在の現場で実践していること及び必要とされたことを踏まえた実習を行うことで、新しい電子制御機構や現在の整備作業の傾向に合わせた基礎実習はもとより、国土交通省の指針に合わせた正しい診断技術も含めた整備及び検査が出来る能力を身につけさせ即戦力としての人材育成を行う。

(2)実習・演習等における企業等との連携内容

現在の自動車にあったカリキュラムを実践するとともに、国土交通省の指針にある基礎実習を確実に行う。前期及び後期末時に担当者による学生の学習成果の評価を踏まえ、担当教員が成績評価を行う。

(3)具体的な連携の例

科目名	科目概要	連携企業等
自動車実習 (企業実習整備作業)	現在の整備作業の傾向に合わせ、基礎技術を中心に基本整備内容を実施するとともに、エンジン整備作業、シャシ整備作業、電装品整備作業、定期点検整備作業、車検整備作業、納車準備作業等について実車を使用し確認する。	熊本トヨタ自動車(株)他、 県内主要ディーラー20社
自動車実習 (故障原因探求2)	現在の整備作業の傾向に合わせ、応用技術を中心に応用整備内容を実施するとともに、ガソリンエンジン及び電装故障原因探求、ジーゼルエンジン及び電装故障原因探求、シャシ及び電装故障原因探求を教材や実車を使用し確認する。	南九州マツダ(株) 齊藤自動車株式会社

3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1) 推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針

研修は、教職員に対して現在就いている職または将来就くことが予想される職に係る職務の遂行に必要な知識又は技能等を修得させ、その遂行に必要な教職員の能力及び資質等の向上を図ることを目的とする。

また、教職員に対し、専攻分野における実務に関する知識や、指導力の修得・向上のための研修を、教職員の業務経験や能力、担当する授業科目や授業以外の担当業務に応じて実施し、受講者はその内容を他教員へ展開することで、全教員のより高度な職務を遂行するために必要な知識を付与することを目的とする。

(2) 研修等の実績

① 専攻分野における実務に関する研修等

1 マツダ技術セミナー

日時、期間 平成30年5月25日 1日間 会場 学内実習場

目的 マツダ自動車より発表された新機構・新装置の代表的なものについての構造・機能等を学ぶ

内容 ローターエンジン構造について、スカイアクティブ技術(スカイアクティブ・ハイブリッド)

についての説明、実車を使用しての診断機による故障探求、整備実演

受講者 中西、淵上

2 スズキ技術セミナー

日時、期間 平成30年 7月 4日 1日間 会場 学内実習場

目的 スズキ自動車より発表された新機構・新装置の代表的なものについての構造・機能等を学ぶ

内容 エネ・チャージ技術(マイルド・ハイブリッド)についての説明、アシスト・ブレーキ機構、

アイドリング・ストップ機構についての説明

実車を使用しての診断機による故障探求、整備実演

受講者 中西、山田

3 IOTセミナー(米善機工株式会社)

日時、期間 平成30年6月13日

内容 第四次産業革命(IOT+AI)を具現化する「Smart Factory」について

受講者 全員

4 朝日高等学校 技術研修会

日時、期間 平成30年 6月 18日から6日間 韓国 朝日ロボット高等学校

内容 第四次産業革命(IOT+AI)に基本技術の研修

受講者 中西

5 スバルメカニックインターンシップ

日時、期間 平成30年8月29日 半日間 福岡スバル(株)本社

内容 スバル車の歴史、水平対向エンジン、アイサイト等の技術説明など

受講者 中西、淵上

6 ダイハツ工業(株)本社教育施設内容研修及び、整備技能コンクール全国大会見学

日時 期間 平成30年10月12日から2日間 ダイハツ工業(株)施設

内容 ダイハツ工業(株)のスタッフ教育施設の説明見学をして、教育技術向上、教材製作等を学ぶ

受講者 中西、西

7 整備主任者法令研修 (熊本県自動車整備振興会主催)

日時、期間 平成30年11月 8日 会場 熊本県自動車会館

目的 基本法令としての整備事業に係る道路運送車両法及び最近改正された法令及び主要通達等

受講者 淵上、村上

8 整備主任者技術研修 (熊本県自動車整備振興会主催)

日時、期間 平成30年10月 17日 会場 熊本県自動車会館

目的 最近1年間に自動車各社が発表した新機構・新装置の代表的なものについての構造・機能等を学ぶ

受講者 淵上、村上

9 自動車検査員研修 (熊本県自動車整備振興会主催)

日時、期間 平成30年11月 予定 1日間 会場 熊本県自動車会館

目的 基本法令としての整備事業に係る道路運送車両法及び最近改正された法令及び主要通達等

受講者 山田、西、松永

② 指導力の修得・向上のための研修等

1 職員研修会 (熊本県専修学校各種学校連合会主催)

日時、期間 平成29年8月23日 1日間 会場 KKRホテル熊本

目的 教職員の知識や、指導力の修得・向上のため、専攻分野やそれ以外の分野を問わず、本学以外の教職員との意見交換

内容 専修学校をめぐる最近の動向等、人権教育、ネット社会における青少年の現状と問題

受講者 遠藤副学長 岩永経営企画部長

(3)研修等の計画

①専攻分野における実務に関する研修等

1 マツダ技術セミナー

日時、期間 平成31年5月25日 1日間 会場 学内実習場  
目的 マツダ自動車より発表された新機構・新装置の代表的なものについての構造・機能等を学ぶ  
内容 ローターエンジンについて、スカイアクティブ技術(スカイアクティブ・ハイブリッド)についての説明、実車を使用しての診断機による故障探求、整備実演  
受講者 西、村上、上田、松永

2 スズキ技術セミナー

日時、期間 平成31年 10月 1日間予定 会場 学内実習場  
目的 スズキ自動車より発表された新機構・新装置の代表的なものについての構造・機能等を学ぶ  
内容 実車を使用しての診断機による故障探求、整備実演  
受講者 中西、山田

3 スバルインターンシップ

日時、期間 令和元年 8月 1日間予定 会場 福岡スバル本店  
内容 スバルの基本技術及び、新機構を学ぶ  
受講者 西、村上

4 整備主任者法令研修 (熊本県自動車整備振興会主催)

日時、期間 令和 元年10月 予定 1日間 会場 熊本県自動車会館  
目的 基本法令としての整備事業に関する道路運送車両法及び最近改正された法令及び主要通達等  
受講者 淵上、村上

5 整備主任者技術研修 (熊本県自動車整備振興会主催)

日時、期間 令和 元年10月 予定 1日間 会場 熊本県自動車会館  
目的 最近1年間に自動車各社が発表した新機構・新装置の代表的なものについての構造・機能等を学ぶ  
受講者 淵上、村上

6 自動車検査員研修 (熊本県自動車整備振興会主催)

日時、期間 令和 元年11月 予定 1日間 会場 熊本県自動車会館  
目的 基本法令としての整備事業に関する道路運送車両法及び最近改正された法令及び主要通達等  
受講者 西、松永

②指導力の修得・向上のための研修等

1 職員研修会 (熊本県専修学校各種学校連合会主催)

日時、期間 令和 元年8月19日 1日間 会場 KKRホテル熊本  
目的 教職員の知識や、指導力の修得・向上のため、専攻分野やそれ以外の分野を問わず、本学以外の教職員との意見交換  
内容 専修学校をめぐる最近の動向等、人権教育、  
受講者 西、中西

4. 「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1)学校関係者評価の基本方針

本校の基本方針に基づき、学校運営が適正に行われているかを関連業界団体、企業関係者等の参画を得て、包括的・客観的に判定することで、学校運営の課題・改善点・方策を見出し、学校として組織的・継続的な改善を図る。また、情報を公開することにより、開かれた学校づくりを行う。

(2)「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1)教育理念・目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校の教育重点は十分な成果を上げ、達成されたか。</li> <li>・教育重点の点検・見直しの時期・方法・実施は、適切に問題なく行えたか。</li> <li>・学校の特色はより明確かつ具体的なものとなっているか。</li> <li>・学校の将来構想における質的な面の中長期構想は具体的なものとなっているか。</li> <li>・学校の教育理念・目標及び重点は教職員・保護者へ十分に浸透したか。</li> </ul>
(2)学校運営	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教職員組織、事務組織の概要・権限・役割などは明確でかつ適切か。</li> <li>・意志決定が機動的、機能的で、かつバランスよく行われているか。</li> <li>・目標を個々が理解し、一体となって到達できる組織であるか。</li> </ul>

(3)教育活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教育理念、目標に沿った学校独自の特色あるカリキュラム編成になっているか。</li> <li>・教職員の評価制度は、明確でありかつ適切であるか。</li> <li>・教職員の育成制度(専門性、指導技術、管理運営、事務能力などの教育訓練)は、十分な効果が得られているか。</li> <li>・資格目標の設定とその指導体制は適切に行われているか。</li> <li>・目標資格の合格者数は目標に達しているか。</li> </ul>
(4)学修成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教育重点の設定及び実施は、適切に問題なく行えたか。</li> <li>・学校の特色はより明確かつ具体的なものとなっているか。</li> </ul>
(5)学生支援	<ul style="list-style-type: none"> <li>・クラス担任によるクラス運営を通じた一人ひとりの個性と現状の把握とクラス目標の取組がなされているか。</li> <li>・実態に即した相談とカウンセリングおよび家庭との連携がなされているか。</li> </ul>
(6)教育環境	<ul style="list-style-type: none"> <li>・校地・校舎・設備は、教育効果の向上が十分に図れるような工夫と活用がなされているか。</li> <li>・総合的な観点から管理が整い、保守が定期的に行われ、環境が維持されているか。</li> <li>・実習授業・インターンシップに関する協力が得られているか。</li> <li>・授業成果の評価に関する協力が得られているか。</li> </ul>
(7)学生の受入れ募集	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高等学校等接続する機関に対する情報提供等の取組が行われているか。</li> <li>・学生募集活動は、適正に行われているか。</li> <li>・学生募集活動において、資格取得・就職状況等の情報は正確に伝えられているか。</li> <li>・学生納付金は妥当なものとなっているか。</li> </ul>
(8)財務	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか。</li> <li>・予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか。</li> <li>・財務について会計監査が適正に行われているか。</li> <li>・財務情報公開の体制整備はできているか。</li> </ul>
(9)法令等の遵守	<ul style="list-style-type: none"> <li>・法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか。</li> <li>・個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか。</li> <li>・自己評価の実施と問題点の改善を行っているか。</li> <li>・自己評価結果を公開しているか。</li> </ul>
(10)社会貢献・地域貢献	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか。</li> <li>・学生のボランティア活動を奨励、支援しているか。</li> <li>・地域に対する公開講座・教育訓練(公共職業訓練等を含む)の受託等を積極的に実施しているか。</li> </ul>
(11)国際交流	<ul style="list-style-type: none"> <li>・留学生の受入れ・派遣について戦略を持って行っているか。</li> <li>・留学生の受入れ・派遣、在籍管理等において適切な手続き等がとられているか。</li> <li>・留学生の学修・生活指導等について学内に適切な体制が整備されているか。</li> <li>・学習成果が国内外で評価される取組を行っているか。</li> </ul>

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)学校関係者評価結果の活用状況

・「学校の理念が学生の目に触れていないのでは」というアドバイスを受け、日常的な意識高揚のため、建学の精神である

「創造・倫理・実践」を額に入れ、職員・学生全員が目に触れるよう各教室に掲示した。

・広報活動にもっと力を入れて欲しいという意見を受け、これまで実施していなかった私立高校向けの進学説明会を実施することとした。

・様々な意見を取り入れ、新たに中期振興計画立案の参考にした。

(4) 学校関係者評価委員会の全委員の名簿

平成31年4月1日現在

名前	所属	任期	種別
佐藤 泰生	一般社団法人日本機械学会 会員	平成30年4月1日～ 令和 2年3月31日	学識経験者
富永 好三	熊本県工業連合会 事務局長	平成30年4月1日～ 令和 2年3月31日	工業団体代表
竹原 崇	熊本県自動車整備振興会 業務課長	平成30年4月1日～ 令和 2年3月31日	業界団体代表
堀下 信也	一般社団法人九州電気保安協会熊本支部 熊本東事業所 事業所長	平成30年4月1日～ 令和 2年3月31日	業界団体代表
池松 康博	株式会社 池松機工 代表取締役社長	平成30年4月1日～ 令和 2年3月31日	企業等委員
八田 豊	地域住民(熊本県立八代工業高校 元校長)	平成30年4月1日～ 令和 2年3月31日	地域住民代表
有馬 豊	有馬税理士事務所 所長(税理士)	平成30年4月1日～ 令和 2年3月31日	企業等委員
益田 耕一	ネットヨタ中九州株式会社 取締役営業統括部長	平成30年4月1日～ 令和 2年3月31日	企業等委員
田中 満生	学校法人開新学園 開新高等学校長	平成30年4月1日～ 令和 2年3月31日	校長等

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例)企業等委員、PTA、卒業生、校長等

(5) 学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

(ホームページ・広報誌等の刊行物・その他( ) )

URL:<http://www.kumakosen.jp>

5. 「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1) 企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

より実践的な職業教育を確保するため、教育活動の観察や意見交換等を通じて、教育活動及び学校運営の状況に応じて自己評価の結果を踏まえた評価を行い、その結果を学長に報告する。学長は、その結果を踏まえ、教育活動や学校運営の改善を図る。

(2) 「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1) 学校の概要、目標及び計画	学校概要、校訓、沿革、所在地、連絡先、魅力、開新学園の取組
(2) 各学科等の教育	定員、カリキュラム、取得可能な資格、国家試験・検定実績・内定実績
(3) 教職員	教員一覧
(4) キャリア教育・実践的職業教育	就職サポート
(5) 様々な教育活動・教育環境	年間行事、宿泊研修、企業実習、整備競技大会
(6) 学生の生活支援	学生寮
(7) 学生納付金・修学支援	学費について、特待生制度、学費分割納入制度、日本学生支援機構奨学金制度
(8) 学校の財務	財務情報
(9) 学校評価	自己点検・評価報告書、学校関係者評価委員会評価報告書
(10) 国際連携の状況	
(11) その他	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 情報提供方法

URL:<http://www.kumakosen.jp>



授業科目等の概要

(工業専門課程自動車整備工学科) 平成31年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			ソーシャル (教養)	一般教養 ビジネスマナー ビジネスコンプライアンス	1 前	32.4		○			○		○		
○			自動車工学 (自動車の構造・性能・燃料・潤滑剤)	ガソリンエンジン構造、潤滑装置、冷却装置、燃料装置、吸排気装置	1 通	88.2		○			○		○		
○			自動車工学 (自動車の構造・性能・燃料・潤滑剤)	シャシ構造、動力伝達装置、アクスル及びサスペンション、ステアリング装置、ホイール及びタイヤ、ホイールアライメント、ブレーキ装置、フレーム及びボデー	1 通	91.8		○			○		○		
○			自動車工学 (電気・電子理論)	電装品構造、電気回路、オームの法則、電気、電子の基礎、バッテリー、始動装置、点火装置、充電装置、車体電装	1 通	45.0		○			○		○		
○			自動車工学 (自動車の力学・数学)	単位、基礎的な原理・原則、自動車の諸元、電気の基礎(基礎編)	1 通	28.8		○			○		○		
○			自動車整備 (エンジン)	エンジン本体、潤滑装置、冷却装置、燃料装置、吸排気装置	1 通	45.0		○			○		○		
○			自動車整備 (シャシ)	動力伝達装置、アクスル及びサスペンション、ステアリング装置、ホイール及びタイヤ、ホイールアライメント、ブレーキ装置、フレーム及びボデー	1 通	52.2		○			○		○		
○			自動車整備 (電装)	半導体、バッテリー、始動装置、点火装置、充電装置、車体電装、電気回路図	1 通	23.4		○			○		○		
○			機器の構造・取扱い	機器の基礎知識、基本作業、測定作業、エンジン点検作業、シャシ点検作業、充電作業、清掃、洗浄作業、給油作業、昇降作業、点検用機械工具、検査用機械機器	1 通	63.0		○			○		○		
○			自動車実習 (工作作業)	基本作業、たがね、やすり、弓のこ、リーマ、タップ、ダイス、ベンチグライнда、電気ドリル、卓上ボール盤	1 通	64.8				○	○		○		

○		自動車実習 (測定作業)	スケール、ノギス、マイクロメータ、ダイヤル・ゲージ、シリンダ・ゲージ、プラグ・ギャップ・ゲージ、プラスチック・ゲージ、定盤、Vブロック、スコヤ、ストレートエッジ	1 通	64.8					○	○	○					
○		自動車実習 (ガソリンエンジン整備作業)	エンジン本体、シリンダヘッド、シリンダブロック、ピストン、コンロッド、クランクシャフト、フライホイール、バルブ、カムシャフト	1 通	165.0					○	○	○					
○		自動車実習 (シャシ整備作業)	動力伝達装置、アクスル及びサスペンション、ステアリング装置、ホイール及びタイヤ、ホイールアライメント、ブレーキ装置、フレーム及びボデー	1 通	179.4					○	○	○					
○		自動車実習 (電装品整備作業)	始動装置、充電装置、点火装置、電子制御装置、灯火装置、計器、ホーン、ワイパ、ウォッシュャ、エアコン、電気装置の配線	1 通	174.0					○	○	○					
○		自動車実習 (企業実習整備作業)	エンジン整備作業、シャシ整備作業、電装品整備作業、定期点検整備作業、車検整備作業、納車準備作業、	1 後	72.0					○		○	○				○
○		自動車工学 (自動車の構造・性能・燃料・潤滑剤)	ジーゼルエンジン構造、潤滑装置、冷却装置、燃料装置、吸排気装置、LPG燃料装置、排気ガス対策、特殊機構	2 通	122.4				○		○	○					
○		自動車工学 (自動車の力学・数学)	単位、高度な原理・原則、自動車の諸元、電気の応用(応用編)	2 前	32.4				○		○	○					
○		自動車工学 (図面・自動車製図)	製図の基本的な知識	2 前	30.6				○		○	○					
○		自動車工学 (自動車材料)	自動車に使われている材料についての種類、性質、特性	2 後	30.6				○		○	○					
○		自動車整備 (ジーゼル)	ジーゼルエンジン本体、潤滑装置、冷却装置、燃料装置、吸排気装置、電気装置	2 後	59.4				○		○	○					
○		自動車整備 (故障原因探求)	ガソリンエンジン、ジーゼルエンジン、シャシ、電気装置故障原因探求	2 通	122.4				○		○	○					
○		自動車整備関係法規	道路運送車両法、道路運送車両法の保安基準、保安基準の細目を定める告示	2 前	30.6				○		○	○					
○		自動車検査 (自動車検査)	道路運送車両法の概要、自動車検査概要、	2 後	32.4				○		○	○					
○		自動車実習 (ジーゼルエンジン整備作業)	エンジン本体、シリンダヘッド、シリンダブロック、ピストン、コンロッド、クランクシャフト、フライホイール、バルブ、カムシャフト	2 通	181.8						○	○					

○		自動車実習 (特殊装置整備作業)	オートマチックトランスミッション、 パワーステアリング、エアブレーキ	2通	124.2						○	○		
○		自動車実習 (自動車検査作業)	道路運送車両法の概要、定期点検整備実施 及び記録簿、自動車検査実施記録簿、	2通	86.4						○	○		
○		自動車実習 (故障原因探求1)	ガソリンエンジン及び電装故障原因探求、 ジーゼルエンジン及び電装故障原因探求、 シャシ及び電装故障原因探求	2通	313.2						○	○		
○		自動車実習 (故障原因探求2・企業実習)	ガソリンエンジン及び電装故障原因探求、 ジーゼルエンジン及び電装故障原因探求、 シャシ及び電装故障原因探求	2通	14.4						○	○	○	
合計			28科目	単位時間( 2340単位 )										

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
		1学年の学期区分	前期・後期
		1学期の授業期間	15週

(留意事項)

1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。

2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。